

## 平成 21 年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

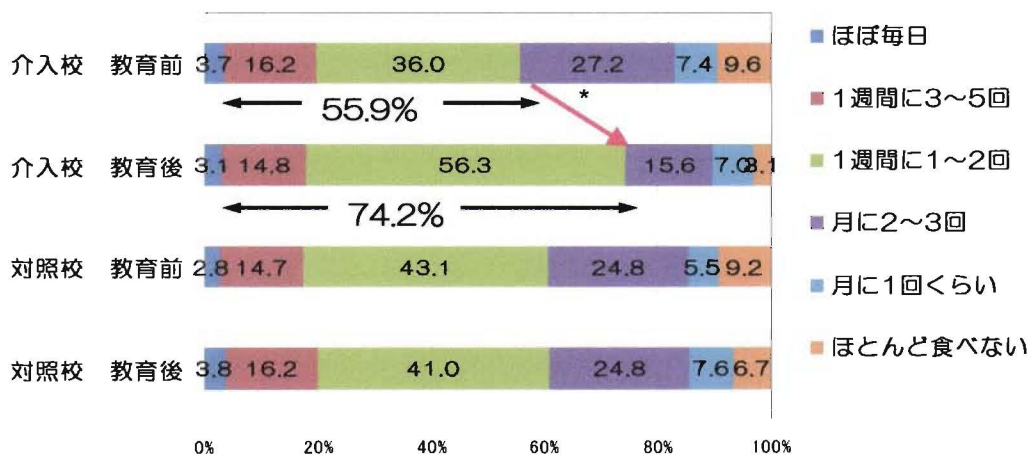
分類 番号	A15	取組 名称	食育の推進による子どもの食生活、運動習慣の改善と健康づくりに関する研究
研究代表者： 生命環境科学研究科 教授： 東あかね			
研究担当者： 京都府立大学（東 あかね、和田小依里、青井渉） 外部分担者・協力者（楠隆氏・萩原暢子氏、北川郁美氏、市川寛氏、横田昇平氏、他 12 名）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府保健福祉部、京都府中丹西保健所、京都府福知山市健康推進課、京都府南丹保健所、南丹市保健課、京都府乙訓保健所、長岡京市健康推進課、精華町衛生課、近江八幡市教育委員会など			
【研究活動の要約】			
<p>目的：生涯にわたる質の高い生活と健康づくりめざして、胎児期から乳幼児、小児における食生活、運動習慣と健康の現状とその関連を明らかにすること、母子保健事業や学校教育における食に関する指導（食育）を実施して、子どもの食生活の改善とやせ、肥満、アレルギー等の健康課題の解決を図ることを目的とした。</p> <p>1.妊婦（胎児期）調査 1)京都府下の地域（南丹市、長岡京市、精華町南部）において出生届けを提出した妊婦（胎児期）を対象に自記式アンケート調査を実施し、食生活、喫煙、飲酒等の生活習慣および受動喫煙の実態を検討し、地域課題を明らかにした。2)長岡京市の妊婦教室に参加した妊婦の1日の食事記録を解析した。2.乳幼児調査 1)長岡京市において過去の乳幼児健診結果から肥満、やせ、アレルギーの現状を把握し、アレルギーによる除去食の実施が体格に及ぼす影響を検討した。</p> <p>2)福知山市において市立保育所に通う5歳児の保護者を対象に食生活調査を実施し、本学3回生が実態に基づく食育を行った。</p> <p>3.学童調査 1)京都市立一小学校において栄養教諭と連携して小学生の米飯および魚料理の給食喫食率の改善をめざした食育を行った。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>1. 妊婦（胎児期）調査：健康づくりにおいて喫煙問題は最重要課題である。妊娠前、妊娠中喫煙率、夫の喫煙率、受動喫煙の現状と妊婦のやせが約25%と高いことを明らかにすることができた。</p> <p>2. 乳幼児調査：福知山市保育所における幼児の食生活調査の結果、子どもの性によって朝食内容が異なることや肥満は男が女よりも多いことを明らかできた。食育推進の基礎資料を提供することができた。</p> <p>3. 学童調査：小学生を対象とした栄養教諭による食に関する指導の効果を明らかにすることができた。本調査結果は栄養改善学会近畿支部大会、および小児科医会主催の小児保健フォーラムで発表し、広く情報提供を行った。</p> <p>本研究で得られた成果は、京都府ならびに市町村の健康増進計画や食育推進計画の科学的根拠となり、地域保健、学校保健において胎児期から生涯にわたる府民の健康増進に寄与することができると思う。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>H21/12/13 同志社女子大学 約60名「栄養改善学会近畿支部学術総会（発表：中野敬子栄養教諭）</p> <p>H22/1/24 アバンティホール 約100名 第4回子どもの食育を考えるフォーラム（発表：東あかね）</p> <p>報告書：1. 京都府福知山市立保育所5歳児の食生活調査結果（府大図書館で閲覧可）</p> <p>2. 京都府立大学食保健学科健康科学研究室卒論・修士論文要旨集（府大図書館で閲覧可）</p> <p>京都府保健所7か所、関係市町4か所、管理栄養士養成校4校、京都市保健衛生局に配布</p>			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 健康科学研究室 教授 東あかね			
Tel: 075-703-5416		E-mail: higashi@kpu.ac.jp	

# 京都市立大宅小学校における魚教育



## 実践② 平成21年度

### 「教育前後における 家庭での児童の魚の摂取頻度の比較」



\*p<0.05 Mann-Whitney検定